

●**京都府亀岡市「議会改革の取組について」**

視察事項である「通年議会」につ

いて、亀岡市議会では、定例会方式に沿って運用すること、閉会期間を設定し効率的な議会運営を考慮することを念頭に、従来の議事運営を大きく変更せず通年議会を実施できるパターンを選択したと説明を受けた。定例会を開いていた月を基本的に議会期間として会議を再開し、以外は休会とする手法である。主なメリットは、行政課題に対し議長の判断で速やかに会議を再開できる。専決処分を減らすことができる。早期に審議議会を確保できる点が挙げられ

た。

また、「一般質問の充実への取組」や「常任委員会のネット配信」についても、事務事業評価の実施、本会議の休日開催、議会報告会等の開催、文書質問の導入、フェイスブックの運用や未成年を対象とした模擬議会の開催など、幅広い取組について説明を受け、非常に参考となった。

本市議会での取組と近似した内容もあり、議会活動を充実させる取組において、本市議会の現在地を再確認することができた視察となった。



▲亀岡市「亀岡市役所」



▲「亀岡市議場」

●**兵庫県明石市「明石市子ども総合支援条例について」他**  
 ●**岡山県奈義町「奈義町子育て支援(奈義モデル)について」他**

◎**明石市** 『子どもは未来』をまわりの基本方針に掲げ『明石市子ども総合支援条例』を制定しており、『子ども施策に力を入れると、経済も良くなる』との考えから独自の『5つの無料化』を実施している。子育て世帯の転入が増えることで、人口や賑わい、税収が増え、さらに新たな市民サービスが提供できるサイクルが確立されていた。子どもだけでなく、「誰にでもやさしいまちづくり」への推進を目指しており、本市でも将来を見据えて、戦略的に取り組む必要性を感じた。

◎**奈義町** 平成24年に『奈義町子育て応援宣言』を発表し、一貫した歳出削減と施策の見直しを繰り返して、学生への支援や住民参加型の体制づくり、経済的な支援など、20年かけ子育て施策を拡充してきた結果が現在に至っていることがうかがえた。奈義しごとえんでは、短時間のワーキング事業の『しごとコンビニ』を行い、働き手と仕事を結び付けることで地域との関わりや地域経済の循環にもつながっていた。町民同士で子育てを支えあう体制が整備されており大いに勉強になった。



▲明石市「明石市議場」



▲奈義町「奈義しごとえん」